

令和 7 年 6 月 19 日

浜田市議会議員 様

議員名 柳 楽 真智子

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先

- ・大阪府寝屋川市
- ・大阪府豊中市社会福祉協議会
- ・滋賀県蒲生郡竜王町

2. 視察事項

- ・寝屋川市 市長部局に監察課を設置したいじめの早期対策の取組みについて
- ・豊中市社会福祉協議会 ひきこりや生活困窮者などへの重層的支援の取組みについて
- ・竜王町 公民館と連携したコミュニティスクールの取組みについて

3. 視察の目的（市政との関連など）

- ・「寝屋川市」では、**2019** 年に教育委員会とは独立した市長部局に「監察課」を設置し、当事者への聞き取りなどを通し、いじめの早期対応の取組みを視察するもの。
- ・「豊中市社会福祉協議会」では、ひきこもりや困窮者などの属性にとらわれることなく、官民共同の重層的支援の取組を視察するもの。
- ・「竜王町」では、当市でも今年度からはじまったコミュニティスクールについて、公民館と連携した学校支援本部（学校応援団）を視察するもの。

4. 期間（移動日を含む）

令和 7 年 6 月 3 日（火） ～ 令和 7 年 6 月 5 日（木）

5. 経費

54,258 円

（経費内訳 視察協力金 1,834 円、旅費 33,244 円、宿泊費 19,180 円）



6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

- ・寝屋川市ではいじめ対策を、教育的・行政的・法的の3つのアプローチとして進め、市長部局に監察課を設置することでいじめの即時停止を進めている。いじめを人権問題と捉え早期解決に向けた取組は、当市においても結果の見えるいじめ対策にいかしていきたい。
- ・豊中市社協では、コミュニティソーシャルワーカーを中心に、市民ボランティアを含む他機関連携により、1人も取りこぼさない地域共生社会の実現に取り組まれている。社協や行政だけの力では人的パワーが限られることから、様々な人の得意分野を活かしながら、活躍の場や仕組みを作り出されており、人を活かすまちづくりを提案していきたい。
- ・竜王町では公民館を核とした多様な人材と児童・生徒・学校をつなぐことで、社会に参画する人材の育成を目指されている。今年度から始まったコミュニティースクールの取組のモデルとなるようさらに研究していきたい。

7. 視察内容

【寝屋川市】

- ・令和元年10月に、市長部局の危機管理課に監察課を設置し、いじめ0に向けた新たなアプローチを開始した。

○教育的アプローチ（学校・教育委員会による通常の対応）では

教職員からするといじめられている側もいじめている側も、共に大切な児童・生徒であることから、教育的な指導による「人間関係の再構築」を目的としている。ほとんどのいじめ事案が解決するが、人間関係の再構築には時間がかかるほか、児童と教職員の問題への対応は困難である。

（国のいじめ防止対策推進法や基本方針に基づく対応）

○行政的アプローチ（市長部局「監察課」によるいじめ対応）では

いじめを人権問題と捉え「いじめの即時停止」を目的としている。対象は被害児童・生徒、加害児童・生徒の概念を用いた対応で、短期間で判断・解決できることや児童・生徒と教職員の問題にも対応する。また、独自データに基づく「是正勧告」を実施することができるメリットもあるが、「人間関係の再構築」が困難である。

（独自の基準によるいじめの認定）

○法的アプローチ

（賠償請求などの民事訴訟や刑事告訴の支援、弁護士費用を補助）では対象者は法的手続きの当事者（原告・被告等）で、責任の追及や損害の回復を目的としているが、行政的アプローチと同じく「人間関係の再構築」は難しい。

- ・攻めの情報収集として毎月1回、市立の全児童・生徒に対して「いじめ通報促進チラシ」を配布しており、いじめの情報収集（早期発見）といじめの抑止効果に繋がっている。このチラシには手紙以外の相談方法（メール・

フリーダイヤル・市公式アプリ・LINE) も記載されている。

- ・令和6年度は監察課に186件の直接相談(いじめ以外の相談を含む)があったが、その内63件がチラシによる相談であった。対象年齢に合わせたチラシを作成している。
- ・「子どもたちをいじめから守る条例」が令和2年1月に施行され、その中で必要がある時の学校や関係機関に対する調査実施、是正勧告を行うことができる」と定めている。

勧告内容

- ① 児童等に対する見守り
- ② いじめ防止の環境整備
- ③ 訓告・別室指導その他の懲戒
- ④ 出席停止
- ⑤ 学級替え
- ⑥ 転校の相談及び支援 等

- ・寝屋川市いじめ被害者支援事業補助金も創設している。

○弁護士費用等支援事業

解決のための弁護士への相談・委任に係る費用 1件当たり 300,000円

○天候費用等支援事業 転校に要する費用

- ・転校先の学校が指定する制服、体操服等の物品購入費
- ・転校先の学校に通学するための交通費

1件当たり 150,000円に達するまで

○いじめ被害所有物に係る原状回復支援事業

被害を受けた物品の買換えに要する購入費 1件当たり 10,000円

【所感】

教育的・行政的・法的の3段階によるいじめ対策は、しっかりといじめの内容に迫り、必要な措置を迅速に行うために有効な取組みである。教育機関と行政がダブルチェックを行うことで不備をチェックできることや事後の検証も行われており、教職員との問題にも対応が可能となるなどいじめ対策の幅が広がることから、浜田市でも参考にできると感じた。

【豊中市社会福祉協議会】

- ・2004年からコミュニティソーシャルワーカー(CSW)を地域福祉計画に位置付けて取組んでいる。

- ① 制度の狭間から地域づくりへ
- ② 住民と協働するワーカー
- ③ ライフセイフティーネットの仕組み
- ④ プロジェクト会議 総論賛成・各論賛成で排除しない地域づくり
個の課題から地域づくりを考える視点に立ち、ゴミ屋敷・子どもの貧困・ひきこもり・8050問題・アルコール依存・刑余者など社会的孤立にアプローチを行っている。

- ・8050問題のプロジェクトチームも立ち上げている。

- ・平成7年の阪神淡路大震災の翌年に、小地域ネットワーク活動を開始。平

成 30 年の大阪北部地震・台風 21 号の際には、地域の見守り力が発揮された。安否確認などの住民ボランティアは、38 地区に 8,000 人いる。孤独死を防ぐための取組である。

- ・ひきこもり対策

- 人はちょっとしたきっかけで変わることができる。アプローチの仕方が重要である。一人一人に合った参加支援を作り出す。

- その人の得意なこと、できることを見つけ出してそれを糸口に活躍の場を作り出していく。

- ・高齢者等見守りネットワークによる緊急時の対応の仕組みとして、ローラー作戦を年間 4000 件行うとともに、見守りマップを作成している。

- ・課題に合わせたプロジェクトを立上げ、住民の居場所や役割に繋げている。

- ・学校と福祉の連携プロジェクト

- プロジェクト会議を設置

- 教職員のための連携ガイド作成

- 民生児童委員と一緒に全校訪問

- 食のアウトリーチ

- 文化的活動への誘い

- 学習支援・子ども食堂づくり

- エンゼルヘルパーの実験

- ・外国人支援と福祉の連携プロジェクト

- プロジェクト会議の設置

- 食材支援（技能実習生・夜間中学・大人食堂）

- 食材支援付き何でも相談会

- アンケート調査

- バザー

- フットサル交流会

- 見守り訪問

- ・ひきこもり支援でまちづくり

- 発達障がいやひきこもりなどで就職に距離がある人に対し、プログラム予定を作成し参加したいプログラムにエントリーしてもらう。

- （プログラム参加の中でオーダーメイド型の支援を行う）

【所感】

個々が抱える問題は異なることから、その人が置かれている環境にも目を向けて、社会参加のために必要なその人だけの手法を見出されていることは容易なことではないと考える。また、地域住民による見守り活動の推進が図られており、行政や社会福祉協議会等のマンパワーでは到底追い付かない数の見守り訪問が実施されていることは、独居や高齢者のみ世帯への支援、ひきこもり対策として重要な取組みだと感じることから、浜田市の重層的支援体制整備の参考となるよう質問や提案につなげていきたい。

【滋賀県竜王町】

- ・地域学校協働本部と学校運営協議会の連携による、人材育成と未来の学校づくり・地域づくりを目指している。

- ・地域や家庭と学校が共に学び合うことをめざして、竜王町地域学校協働

活動推進計画に基づく活動を展開している。

- ・社会の発展に参画する人づくりを今年度から始めた。
- ・地域学校協働本部が中心となって、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、各校園と連携して「地域とともに歩む学校づくり」「学校園を核とした地域づくり」を
- ・地域と学校をつなぐために、統括マネージャーの役割は大きい。
- ・学校支援ボランティア活動では、ボランティアが「生きがい・やりがい」を感じるとともに、地域における人材ネットワークが広がることを目指した機会や場となるよう工夫する。
- ・子どもたちの「ふるさとを愛する心」を育むためには、竜王町の自然や歴史に触れる体験が必要なことから、地域と学校が連携して「ふるさと学習」を充実させため、令和5年度から新たに「ドラゴンカレッジ」（公民館講座）で「自然探訪講座」を開設し、自然探検を支援するメンバーの育成を行っている。

・学校支援としての活動例

○体力測定	ボール投げ等測定補助	全学年
○家庭科	裁縫・ミシン操作	5年・6年
○農園作業支援	さつま芋植え等	1年・2年・特支
○はなまる先生	宿題のまるつけ	全学年
○クラブ活動	クラブ活動指導	4～6年

これらの取組は教員の負担軽減にもなっている。

【所感】

公民館活動が盛んに行われており、利用者も多いとのこと。様々な講座を児童・生徒の活動に繋げ、子どもたちと地域住民双方の活力になっていると感じた。校長経験のある統括マネージャーがいることで、学校のことも分かり住民のことも知っているという強みを活かして、地域と学校、人と人の繋がりが作られていた。竜王町の公民館は1か所なので浜田市とは条件は全く違うが、今年度から浜田市でも取組みが始まったコミュニティースクールの取組の参考としていきたい。